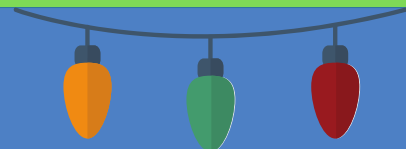


CCJニュース

発行元：ケアコミュニティジャパン



今月号の内容

1. 第10回ENJAオランダ大会
2. 素顔の瀬戸先生に触れて
3. Zoom勉強会計画中
4. CCJコアメンバー紹介
クリスマスに思う事



「邦人高齢者施設設立へのチャレンジ」について、CCJ共同代表の飯塚忠治がプレゼンテーション

第10回ENJAオランダ大会

吉村珠美

ENJA (European Network of Japanese Associations、<https://enja.jimdosite.com>) はヨーロッパに存在する日本人関連団体が二年に一度程度開催国に集まり、①決められたテーマのもとに講習会を開き新しい知識を学び、②参加される団体が行っている活動について報告し合い、③参加団体との交流を深め④ヨーロッパに在住する日本人に役立つ情報を交換等を目的に活動されており、2005年に第1回会議が開催されて以来続いています。

10回目の今回は、今年10月3日に開催されたオランダ大会でしたが、コロナ禍のためオンラインで行われました。10ヶ国、24団体から、延べ97人の参加があったそうです。

テーマのひとつが『在蘭邦人の諸高齢化問題と対応』で、はじめに「在蘭邦人が高齢化に伴い将来抱える問題」や「オランダの高齢者医療を日本人医師からみて気が付いた点」について、ストレスと孤独の対処法や認知症と母語返りの関係について等を含む講演がおふたりの在蘭日本人医師からありました。

オランダでも在蘭邦人の数は増えており、言葉や食事の問題は英国と共通で、最後の質疑応答では認知症の村や安楽死についても様々な質問が出ていました。

続いて「邦人高齢者施設設立へのチャレンジ」についてデンマーク、オランダ、英国からプレゼン＋パネリストの討論があり、英国は**CCJ共同代表の飯塚さん**が発表されました。

デンマークではすでに日本のNGO法人「ホスピスカあさんの家」と地域とも連携して、家族同様に最後までその家に住むことができ、入居者を支えるホームホスピスを作り看取りの文化を広げる試みが始まりつつあるとのことでした。

また、オランダは政府の方針が自宅ケアを強化する方向に進む中、日蘭ネットが様々な世代が住む集合住宅とコミュニティづくりを6名のメンバーを中心に活動しているとことでした。

デンマークもオランダも、他のヨーロッパ諸国から見えていた皆さんのご意見を聞いても、人数的には英国ほどの規模ではないですが、まだまだこれからのプロジェクトと今後の問題点は大変共通していると認識し、今後も交流を続けたいと感じました。

瀬戸内寂聴先生を偲んで



今月9日、瀬戸内寂聴先生が心不全のためお亡くなりになりました。99才でした。

1991年に寂聴先生が英国をご訪問された際、田口晴恵さんは先生とお会いする機会がありました。その時の思い出を『なみの会』の会報に投稿し、今、寂聴先生を偲び、ここに掲載致しました。

素顔の瀬戸内先生に触れて

田口晴恵

『世話係からの感想』

仕事柄、日本からの来客接待を時々頼まれますが、今回は寂聴先生にお会い出来、又お世話が出来て光栄でした。

同じく講演会の講師として呼び出した中野先生とも2日間御一緒したわけです。お二人とも日本の社会においては『反逆児』的な意見をお持ちの方々との印象を受けました。日本に住むとどうしても他者との協調を重視されます。個人の意見よりも集合的な纏まりが大切となります。外国で日本の企業に勤めているとどうしても感じないわけにはいかない事実です。

私達のように日本の外で暮らすことを選んだ者にとって、それを批判する事は簡単ですが、日本に住み、世界の中での日本の「おかしい点」「間違っている点」を指摘される作家の方々に応援したいと思います。

日本は戦後の復興を見事に果たし今や世界の経済の中心となっています。これからの日本は国内の繁栄のみを考えているだけでは世界に通用しません。戦後の苦しい時に日本に援助をしてくれた当時の先進国を忘れてはならないと思います。

まさしく日本はこれから世界に対して援助を率先して行くくらいでなければ対等に評価されることはないでしょう。又、お金で処理すればよいことでもないことは、英国に住む私達は日常茶飯事の事として痛感しています。

寂聴先生が講演の中で、面白可笑しく話されていたイラクでのボランティア活動(先生と日本人男性2人、計3人で構成するあくまでボランティア精神に基づいたイラクへの旅。旅費は個人負担、日本で集めた募金はイラクの人々が必要とする薬品を購入して、自らがイラクへ届けた、というもの。)も英国に住んでいると一般の人々がごく自然にやっていることです。

日本は寂聴先生のような著名な方がやらないと世間に訴える力が乏しい、と先生は嘆いておられました。先生が仰るように「日本人」を卑下することはありません。

只、世界に通用する「日本人」を私達一人一人が自分で考え、実行する事がこれからの課題だと思います。そういった意味でも外国に暮らす私達は「日本」と「世界」との架け橋で或ることを認識し、毎日を生きるべきと思います。

話が十分深刻になってしまいました。最後に寂聴先生の「思いやり」実践ひとこま。

講演後、講師と関係者の簡単な立食が用意されました。皆、この時とばかり交代で先生とお話をしたり記念写真を撮ったり約1時間が過ぎました。私は留守番、子守をしている主人の疲れ切った顔を思い出し、そろそろお暇しようとお別れのご挨拶をしようと思っている時タイミング良く「先生もお疲れでしょうから、この辺りで・・・」とのアナウンスがありました。

翌日から私のボスがアムステルダム及びデュッセルドルフ講演同行の為これが私にとって最後、と判ると先生は「ちょっと、私の部屋まで・・・」と仰って例の如くサッサ、サッサと元気良く先を歩いて行かれました。

(因みに中野先生は日本を出られて3日目にして疲れがひどく、先にお部屋に戻られていました。)

寂聴先生はお部屋に戻ると即、何かしていらっしゃいます。捜し物でもしておられるかと思いきや、「お嬢ちゃんにお菓子でも買ってあげて。」と白い包みものを私の手に握らせようとなさいました。私は必死の思いでお断りし、その代わりにサインを頂くことにしました。さすが寂聴先生、毛筆でスラスラと一句書かれ、私にとって貴重な思い出の一つとなりました。このエピソードは寂聴先生のお人柄をよく表していると思います。別にしなくても良かったことです。それをお疲れであろうにも係わらず行動に表して下さったことが、御世話をした私にはとても嬉しかった事は隠せません。

1991年6月号 (なみの会会報より)



(Google無料画像より)



Zoom勉強会 企画中！ いいね！！



CCJのFacebookのリンクはこちら

<https://www.facebook.com/groups/399191391153322>

CCJのFacebook入り方のリンクはこちら

<https://drive.google.com/file/d/1gzn0aqJnGiENgeeXdlaiA0meKxKeAE-l/view?usp=sharing>

現在、グループメンバーは74名！

こんにちは。CCJのMina K-Allenです。FBグループの管理人を担当しています。

このFBグループは、世代や居住地、生活環境の違いを超え、在英日本人とそして、日本に関する色々な分野に関わっている方々個々人の将来への関心・興味を反映するコミュニケーションの場として作りしました。「ケアホーム設立プロジェクト」をたくさんの人々に知ってもらい、共感をしていただき、共にディスカッションをしながら、交流を深め、コミュニティの信頼関係を育みながら、一緒にプロジェクトの実現を目指すことを目的に今年の6月から参加者を募り、11月11日現在、グループメンバーは、74名となりました。

去る、10月14日に開催した、1000人プロジェクトアンケート集計結果報告会を踏まえて、更なる次のステップへと、目下のところZoom勉強会を企画しております。日程確定次第、お知らせいたしますので、引き続き、皆様からの貴重な声を傾聴し、その声をプロジェクトに反映しながら、皆様と共に、社会の中での本当の必要性を見いだして、机上案から実施案を目指したいと思います。このプロジェクトを、少しでも多くの方々に知っていただく為に、ぜひご協力ください。どうぞ引き続き宜しくお願い致します。

CCJコアメンバー紹介

クリスマスに思うこと

千原 冬子

クリスマスのイルミネーションが、待っていたかの如く一斉に街中を飾る十一月。

時折ショウウィンドウに映る自分の姿に、自分が『外国人』であることを忘れていたことに気づく。この黒髪の小さなアジア人は、どう見ても異国の人間であるのに。イギリスに移住して、社会の中の自分を考えるようになった。そして今、クリスマスの街を歩きながら『繋』と『感謝』という文字が脳裏を巡る。

CCJに参加したいと思ったきっかけも、こういった思いがあつてのことだった。

看護師になりたいという思いを秘めてロンドンに到着した1995年、一瞬にして社会からの疎外感を味わった。言葉が通じない。一気に打ちのめされた。しかし、あれから多くの人と出会い支えられ、今は看護師として働いている。

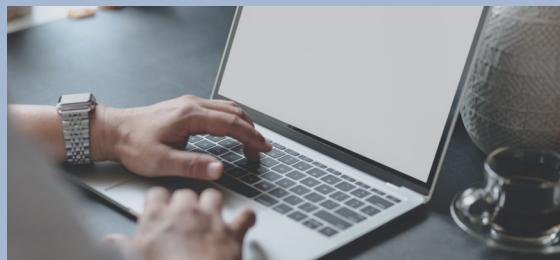
しかし、あれから多くの人と出会い支えられ、今は看護師として働いている。CCJを通して出会った人生の先輩方も、個々の思いを持ってイギリスに渡っていらしたことを知り、同志でもあるかのような力強い勇気を頂いている。

ゼロから始まったイギリスでの生活は、家族友人に支えられたのは勿論、イギリスの美しい四季にも心と体を癒され今日までやってこられた。もう一つ思うことがある。それは、これまで出会った患者さんの支えなしには、今の自分がいなかったことだ。重度の知的障害を持った方々との仕事をしていた一年目、彼らは私が移民であることの差別は一切しなかった。英語がおかしくても、そんなことで新米の外国人看護師を評価しなかった。この人とは心が通うのか、それだけを見ていてくれた。そんな彼らが、私の看護師への道の第一歩を支え応援してくれた。このクリスマス、沢山のありがとうを、あの時の彼らに送りたい。

ITヘルプ求む！

CCJ (ケアコミュニティジャパン) は、パソコンワークのお手伝いをして下さるボランティアの方を探しています
ご協力して下さる方はご連絡下さい。

連絡先: carecommunityjapan@gmail.com



ccjのプロジェクトに
関心を持っていただける方の輪を
広げたいと思います。
ご友人、お知り合いに
このニュースレターを是非転送する形で
この輪を広げるお手伝いをお願いします！

YouTube



CCJのサポーターズミーティング及び進捗状況セミナーはYouTubeで見ることが出来ます。
今年は3月18日第一回サポーターズミーティングから始まり、6月、7月、10月と計4回行われました。3月に立ち上がったCCJは着実に前に進んでいます。今年セミナーに参加されなかった方、ぜひ、YouTubeのCCJのビデオをご覧ください。



←左のYouTubeマークをクリック



皆様、お一人おひとりにとって
素敵なクリスマス
を迎えられますよう、心から願っています

CCJ 一同

CCJ Newsletter

発行日： 2021年11月
発行元： ケアコミュニティジャパン
c/o 80 Cheapside, London, EC2V 6EE
Website: <https://carecommunityjapan.co.uk>

CCJのFacebook、YouTube、メールには以下の
アイコンをクリックしますとアクセスできます。

